

平成31年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

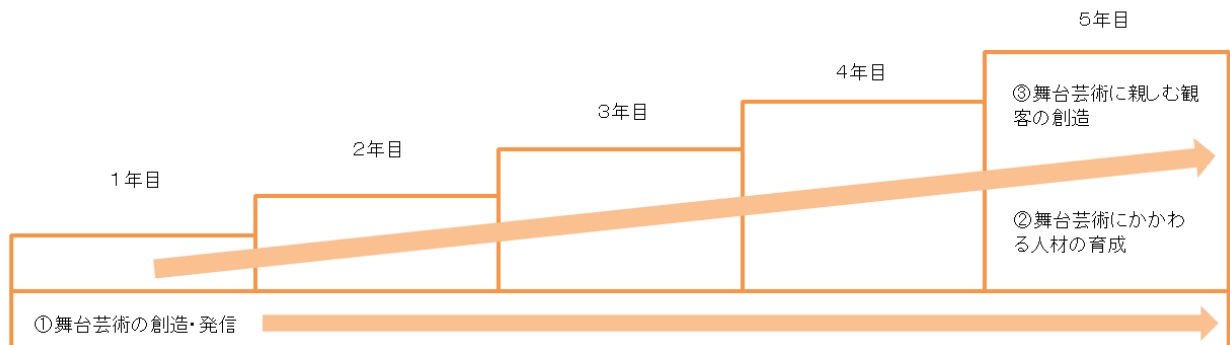
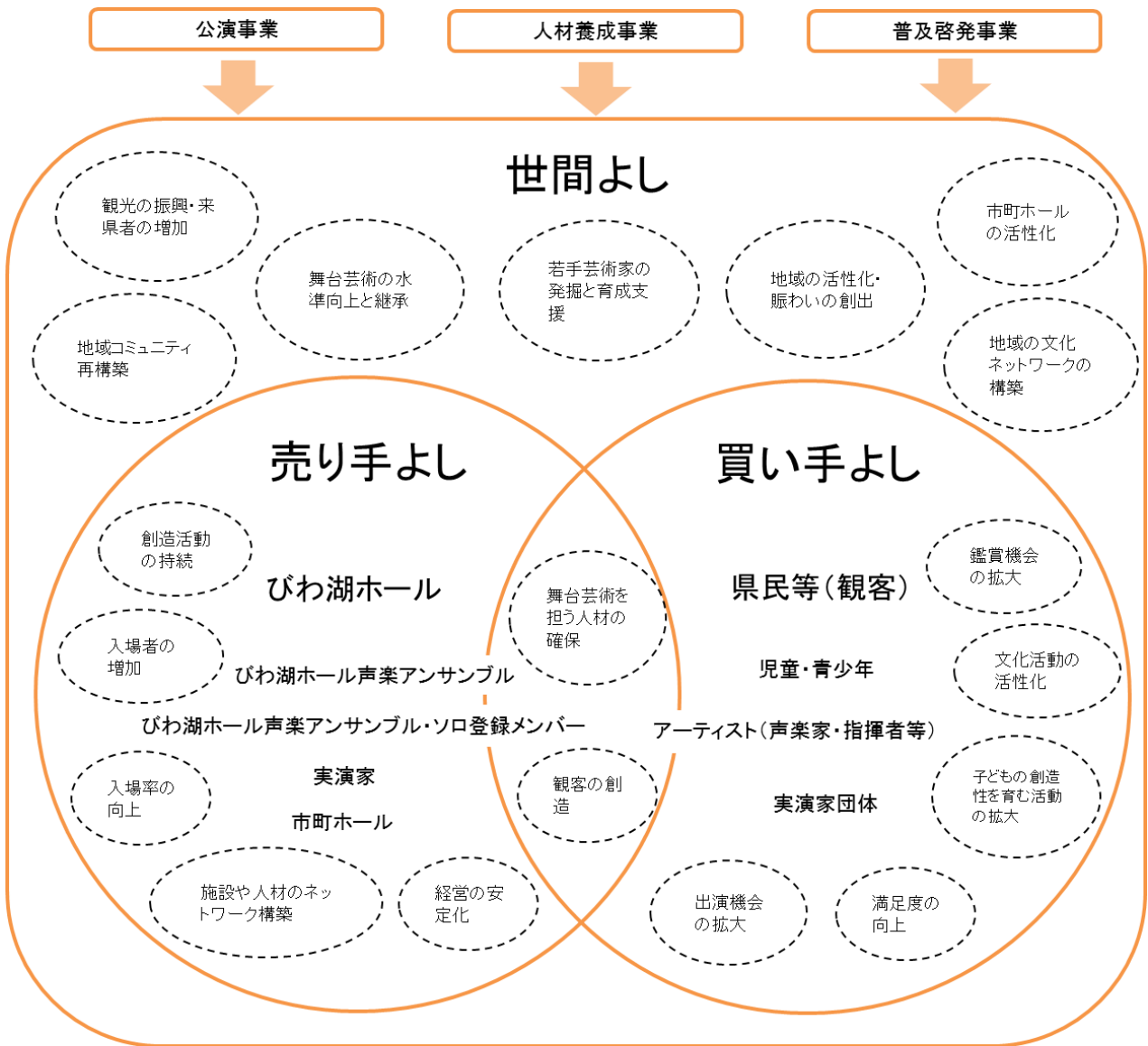
自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人びわ湖芸術文化財団	
施 設 名	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	
助 成 対 象 活 動 名	びわ湖ホール三方よし創造実践事業	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	52,233	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）



(2) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	びわ湖ホールプロデュース オペラ ワーグナー作曲『神々の黄昏』	3月7日、8日	演目：ワーグナー作曲『神々の黄昏』 指揮：沼尻竜典、演出：ミヒヤエル・ハンペ ライブ配信視聴者 413,513 ビュー	目標値	3,173
		びわ湖ホール大ホール		実績値	無観客
2	ジルヴェスター・コンサート 2019-2020	12月31日	指揮：沼尻竜典、司会：桂米團治、 ピアノ：牛田智大、管弦楽：大阪 交響楽団、演出・構成：岩田達宗	目標値	1,497
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,636
3	エイフマン・バレエ 『アンナ・カレーニナ』	7月13日	演目：アンナ・カレーニナ 音楽：P. I. チャイコフスキー 振付：ボリス・エイフマン	目標値	1,430
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,025
4	アリーナ・コジョカル <ドリームプロジェクト 2020>	2月11日	主な出演：アリーナ・コジョカル、 セルゲイ・ポルーニン、ヨハン・ コポー、木村和夫、東京バレエ団 ほか	目標値	1,430
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,350
5	びわ湖ホール声楽アンサンブル 定期公演（第69回、第70回、 東京公演 vol. 11）	9月14日、16日	【第69回/東京公演】指揮・ピアノ： 寺嶋陸也、演目：林光 宮沢賢治の詩 によるソングアルバム 【第70回】中止	目標値	952
		びわ湖ホール小ホール/ 東京文化会館		実績値	894
6	スタインウェイ “ピノ”シリーズ vol. 6	7月6日	ピアノ・解説：園田隆一郎、 出演：竹内直紀、二塚直紀、山本康寛	目標値	287
		びわ湖ホール小ホール		実績値	272
7	沼尻竜典オペラ指揮者セミナー V	8月5日、6日、7日	講師：沼尻竜典、 ピアノ：平塚洋子、湯浅加奈子、 管弦楽：大阪交響楽団、ソリスト・ 合唱：松森 治ほか	目標値	301
		びわ湖ホール大ホール		実績値	434
8	イタリア声楽曲研修Ⅱ	8月22日、23日	受講者：びわ湖ホール声楽アンサンブル 講師：山崎美奈、ピアノ：岡本佐 紀子	目標値	127
		びわ湖ホール小ホール		実績値	214
9	びわ湖ホール舞台技術研修 ～人材育成講座～	5月～3月（一部中止）	講師：ごまのはえ、 振付：山田レイ 演技指導 劇団ニットキャップシ アター	目標値	340
		びわ湖ホールほか		実績値	中止（公演部分）

10	子ども向けオペラ 『泣いた赤鬼』	10月16日ほか10回	指揮：大川修司、演出：岩田達宗、 演出助手：奥野浩子、ピアノ：掛川 歩美、小林千夏、大村夢 出演：びわ 湖ホール声楽アンサンブル	目標値	2,730
		高時小学校ほか		実績値	2,770
11	びわ湖ホール 音楽会に出かけよう！	5月28日ほか5回	指揮：ステファン・ブルニエ、 管弦楽：京都市交響楽団、独唱・ 合唱：びわ湖ホール声楽アンサ ンブル	目標値	11,000
		びわ湖ホール大ホール		実績値	10,948
12	子どものための管弦楽教室 第16回	3月22日予定（中止）	指揮：藤岡幸夫、管弦楽：関西フ ィルハーモニー管弦楽団	目標値	1,003
		びわ湖ホール大ホール		実績値	中止
13	気軽にクラシック	8月29日、9月23日、 11月2日、12月16日	出演者：二塚直紀、植松さやか、酒 井夕彩、岡本伸一郎、石上真由子、 奥田なな子、黒川冬貴、ほか	目標値	1,084
		びわ湖ホール小ホール		実績値	1,182
14	アンサンブルの楽しみ ～演奏家のつどい～	10月14日	司会：中谷満 出演：公募により 選ばれた10組およびゲストプ レーヤー石上真由子ほか3名	目標値	271
		びわ湖ホール小ホール		実績値	266
15	ホスピタルコンサート	10月2日ほか3回	出演者：古延佑里子、青木浅間、 飯島幸子、島影聖人、中西恵子、 岩田玲奈、小林千夏、脇阪法子、 小林朱音	目標値	200
		県内医療機関4か所		実績値	380
16	各種講座（舞台芸術講座、オ ペラ講座、ワークショップ）	4月20日ほか11回	講師：青山登志和、東条碩夫、 岡田安樹浩、伊東史明、藤野一 夫	目標値	720
		びわ湖ホールリハーサル室ほか		実績値	1,301
17	びわ湖ホールロビーコンサ ート	7月3日ほか15回	出演：片岡リサ、葉衛陽、しま まなぶ、津國直樹、中嶋康子、 船橋美穂、川北朋、曾我香織、 初瀬川未雪 ほか	目標値	5,500
		びわ湖ホールメインロビー		実績値	4,271
18	ふれあい音楽教室	9月20日ほか7回	出演：びわ湖ホール声楽アン サンブル	目標値	900
		県内小学校（25クラス）		実績値	782
19	びわ湖ホール声楽アンサン ブル学校巡回公演	5月9日、10日、15日	出演：びわ湖ホール声楽アンサ ンブル	目標値	3,000
		県内小中学校（6校）		実績値	1813
20	バックステージツアー	6月22日、2月1日	企画：びわ湖ホール事業部	目標値	200
		びわ湖ホール大ホール		実績値	176

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p>当財団では、滋賀県文化振興基本方針に掲げる基本目標「滋賀の文化力を高め、発信することで地域が元気になっていく姿」を実現するため、当財団中期経営計画において（１）優れた舞台芸術の創造と県内外への発信、（２）次世代を担うこどもたちの創造性を育む取組の充実、（３）若手芸術家の発掘と育成・支援、（４）県民の主体的な文化活動の支援、（５）文化芸術の力を活かした地域活性化の５つを基本方針として、これらが複合的に事業を展開しています。これらを踏まえ「びわ湖ホール三方よし創造実践事業」では、①舞台芸術の創造・発信、②舞台芸術にかかわる人材育成、③舞台芸術に親しむ観客の創造をアウトカムとして、2019年度は、本助成対象事業として20事業に取り組みました。3月に実施予定であった公演については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため無観客公演のライブ配信を行った公演や中止および延期となる公演もありましたが、中止・延期の公演を除く入場者・参加者は目標に対して94.3%であり、概ね予定どおり実施することができました</p> <p>①舞台芸術の創造・発信では、オペラの自主制作のほか、国際的水準のパレエなどの実演芸術を上演することを通じ、県内外に舞台芸術を創造発信するとともに、その水準向上および継承、ノウハウの蓄積を図りました。②舞台芸術にかかわる人材育成では、「指揮者セミナー」や「イタリア音楽曲研修」により、若手実演家の育成を図り、日本のオペラ界を支える人材の育成に貢献しました。③舞台芸術に親しむ観客の創造では、小学生等を招待してオーケストラ公演を行う「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！」や、アウトリーチとして「学校巡回公演」、「ふれあい音楽教室」で県内小学校にでかけ、3事業の合計で1年目を上回る13,543人の参加があり、将来に向け舞台芸術に親しむ観客の創造につなげました。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>びわ湖ホールは年間に複数本のオペラを自主制作する国内でも数少ない劇場の一つです。優れた舞台芸術を次の世代に継承していくためには、こうした自主制作を継続し、舞台制作技術の水準の維持・向上およびノウハウの蓄積をしていくことが必要不可欠ですが、そのための制作資金の確保と舞台芸術にかかわる人材の育成が課題となっています。びわ湖ホールでは、入場料や寄付金、助成金、県からの指定管理料などにより制作資金を確保するとともに、実演家や舞台スタッフの育成を図っています。その中でも特徴的な取組としてホール専属の音楽家集団「びわ湖ホール音楽アンサンブル」の運営があげられます。全国から厳しいオーディションを経て採用されたメンバーが最長5年間の在籍中にホールでの出演等を通じて経験を積みソリストとして活躍できるよう、若手音楽家の育成を図っています。また、人材が不足しがちなオペラ指揮者を育成するために、プロのオーケストラやオペラ歌手と音楽を一緒に作り上げる手法を学ぶ「指揮者セミナー」を開催し、世界的にも貴重な機会を提供しました。さらに、舞台技術研修では、舞台の進行管理、舞台音響、映像デザインなど、実際の舞台作品制作の実演を通じて、舞台技術スタッフの育成を図りました。（3月の研修および成果発表公演は中止）</p> <p>また、普及事業にも力を入れており、特に、小学生等をホールに招待して舞台芸術を鑑賞する「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！」では、特別支援学校をはじめ心身に障がいがあったり、いじめ等で不登校の子どもたち、学校教育の枠組みの外にある日系ブラジル人学校等にも広く参加を呼びかけ、平成31年度には初めて一万人を超える子どもたちに参加いただくことができました。これは社会包摂としても意義のある普及活動であると考えています。このほかにも、「学校巡回公演」や「ふれあい音楽教室」といったアウトリーチや、県内ホールと連携した「地域連携公演」による市町ホールの活性化、「気軽にクラシック」や「ロビーコンサート」等の低料金もしくは無料の公演を実施することにより、舞台芸術に親しむ観客の創造を図りました。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

「①舞台芸術の創造・発信」として、びわ湖ホールが4年をかけて制作してきた「びわ湖リング」の集大成としてプロデュースオペラ「神々の黄昏」を新制作・上演したほか、本助成金対象事業以外の公演も含め計4演目のオペラを制作・上演しました。「神々の黄昏」公演については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、無観客公演を完全な形で行い、その模様をライブ無料配信しました。この配信は常時1万人以上が同時に視聴しその延べ数は41万人を上回り、国別では、両日とも、日本を筆頭に、台湾、アメリカ、ドイツ、韓国、香港、フランス、タイ、イタリア、オーストラリア、カナダ、イギリス、シンガポール、ベトナム、オーストリア、スイス等、30か国にのぼり、国内外に国際水準の舞台を発信することができました。この他にも、「エイフマン・バレエ」、「アリーナ・コジョカルバレエ」などの海外招聘公演、「ジルヴェスター・コンサート」など自主事業69公演を上演し、鑑賞機会の創出、舞台制作技術の水準向上および継承を図りました。

「②舞台芸術にかかわる人材育成」としては、「オペラ指揮者セミナー」で若手指揮者を、「イタリア声楽曲研修」で若手声楽家の育成を図ると同時に、両事業とも公開で実施し、より深く舞台芸術の成り立ちを学ぶ機会を提供しました。さらに、びわ湖ホール声楽アンサンブルの卒団者は60名を超え国内外に優秀な歌手を輩出しています。また、外部からの依頼公演も28公演あり、びわ湖ホールが核となり、こうした人材が活躍する場を創出する役割も果たしました。

「③舞台芸術に親しむ観客の創造」としては、前述のプロデュースオペラ「神々の黄昏」のライブ配信により、これまでオペラに縁のなかった方が、初めてオペラに触れる機会となるとともに、Twitterのトレンドランキングにも上がるなど、SNS上でも大きな反響を呼び、新たな聴衆の開拓につながりました。また、地域公演にも力を入れ、県内各ホールや小中学校など11か所でオペラ「泣いた赤鬼」を上演し、文化力の向上を図りました。さらに小学生をびわ湖ホールに招待してオーケストラ公演を行う「音楽会へ出かけよう！」のほか、アウトリーチとして「学校巡回公演」や「ふれあい音楽教室」など、子どもたちが本物の音楽の素晴らしさに触れる機会を創出しました。また、無料の「ロビーコンサート」や低廉なチケット料金である「気軽にクラシック」などの実施や、青少年向けの割引料金の設定により、新しく劇場に足を運んでいただけるお客様の開拓に努めました。3月の子ども向け公演の中止もあり青少年の入場者数は昨年度を下回りましたが、青少年を対象としたゲネプロ招待などの企画を併せて実施することで目標の達成を目指します。

助成活動における入場者数および入場率ともに目標をほぼ達成しており、公演アンケートにおける「良かった」以上の割合は昨年度より0.7ポイント上昇し97.5%であったことから、継続して多くのお客様から高い評価を得られたことが伺えます。

自主公演における青少年(25歳未満)の入場者数

(単位:人)

	2016年度	2018年度	2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
	実績	実績	目標	実績	目標	目標	目標
自主公演における青少年の入場者数	4,910	3,233	5,060	1,951	5,110	5,160	5,210

自主公演アンケートにおける「よかった」割合

	2016年度	2018年度	2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
	実績	実績	目標	実績	目標	目標	目標
自主公演アンケートにおける「よかった」割合	96.9%	96.8%	97.0%	97.5%	97.0%	97.0%	97.0%

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

令和元年度は5年間の事業計画の2年目として、1年目を踏まえ、より効率的な事業の執行に努めましたが、本助成対象事業として、1年目より2事業多い全20事業を計画するとともに、助成対象経費全体の要望時と決算時の比較(決算時/要望時)では平成30年度の91.5%から96.45%となりました。(実績報告時に計上できなかったプロデュースオペラ『神々の黄昏』にかかる舞台セット等製作費含む)公演ごとには乖離幅の大きなものもありますが、この理由として事業を実施するなかで費用の逡減に努めたことや、コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった公演等の影響があげられます。

また、事業期間としては計画期間を通して実施を予定しているプロデュースオペラやジルヴェスター・コンサートでは開館以来20年かけて蓄積してきたノウハウを基礎として、創意工夫を重ね継続して公演を行っており、これまでの技術・ノウハウを継承しつつも、新しい取組に挑戦し、よりよい公演に進化させていくことにより、新たな観客の創造にもつながっていると考えております。その一例として、当初の計画にはありませんでしたが、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため実施した無料ライブ配信の取組では、これまでオペラに縁のなかった新たな鑑賞者の創造につながりました。このように劇場で生の舞台芸術を鑑賞したいというニーズがある一方で、インターネットを活用した配信はより多くの人々に舞台芸術を届けることができることから、ライブ配信をはじめ、映像のコンテンツ化、関連するさまざまな分野での活用など将来的な舞台芸術の発信方法として効果的・効率的な展開につながる可能性を示唆していると考えております。引き続き残りの事業期間においても、新しい取組に挑戦しつつ、技術・ノウハウを蓄積し次代に継承するとともに、舞台芸術に親しむ観客の創造を図っていきたくと考えております。

また、事業費の積算において、オペラが他の分野の事業費と比べて大きくなる要因として、作品の上演に高度な演奏技術と演技力が要求され、長時間に及ぶ稽古が必要となり、その間、演奏家や、多くの舞台スタッフが拘束されることに加え、特に今回のプロデュースオペラ「びわ湖リング」シリーズでは作曲家の意図や世界観を楽譜に忠実に反映するために、緻密な舞台美術の製作や、プロジェクションマッピングなどの最新技術による表現方法を導入していることが挙げられます。長期間の稽古や舞台美術の製作は技術の継承に欠かせないものですが、今後これらの事業についても効率的な実施のため、事業費の抑制に努めたいと考えております。

一方で、実演舞台芸術を取り巻く環境は現在大変厳しいものがあり、持続的な組織体制づくりとともに、劇場間のネットワークを活かし海外招聘公演を複数の館で連携して実施することや公演を共同で制作することによって、1館あたりの経費の負担を減らすなどの取組を併せておこなってまいります。

また、収入面では平成31年度より新たに英字のチケット販売サイトを立ち上げ、海外からのお客様の呼び込みを図り、購入者は2公演合計89枚でした。今後は英語版チラシや旅行会社とのタイアップ企画を実施しさらなる海外インバウンドの拡大を図っていきたくと考えています。また、びわ湖ホールが磁気ヒアリンググループ設備を有することを各公演チラシに明記することにより聴覚障害の方の鑑賞を支援し、より多くの方が安心してホールにお越しいただけるような環境整備にも取り組みました。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、獨創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

びわ湖ホールでは、自主制作による創造活動を軸に据え「最高峰の劇場を目指していく」、「親しみやすい劇場を目指していく」という2つの方向性を踏まえ、県民をはじめ多くの方に国際水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わい、繰り返し来場していただけることを目指して、多彩なジャンルにわたって質の高い特色ある事業を実施しています。

当ホールの自主公演については、世界の第一線で活躍する指揮者である沼尻竜典を芸術監督として迎え、プロデュースオペラとして2016年度から4年をかけて新制作しているワーグナー作曲<ニーベルングの指環>全四部作といったフラッグシップ公演の企画や、自らが講師を務める「オペラ指揮者セミナー」、2018年度からスタートした「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」など特徴ある公演について、芸術面を自らプロデュースすることで、オリジナリティと高い水準が確保された公演を実施しました。

また、3月実施の事業については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止の決断を迫られました。こうしたなかでも、プロデュースオペラを無観客公演とし無料ライブ配信するという、新たな形での上演に挑戦し大きな反響を得ました。

さらに、当ホール専属の「びわ湖ホール声楽アンサンブル」は、満30歳以下の若手を対象に全国から厳しいオーディションを経て選ばれたプロの声楽家集団であり、メンバーは最長5年間の在籍中に、第一線で活躍する指揮者、演出家、演奏家の指導のもと、事業計画に掲げる自主制作オペラや定期公演への出演、学校へのアウトリーチ事業等、数多くの本番で経験を積むことで、人材の育成にもなっており、卒団後も「びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー」として、それぞれが声楽家として国内外で活躍しています。2020年度当初でソロ登録メンバーは60名となり、びわ湖ホールの自主公演への出演のほか、地域の様々な催しや学校、企業、福祉施設の依頼公演へ出演するなど、びわ湖ホールの創造活動の核となっています。

びわ湖ホール自主制作オペラの事業数

(単位:作品)

	2017年度	2018年度	2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
	実績	実績	目標	実績	目標	目標	目標
プロデュースオペラ	1	1	1	1	1	1	1
オペラセレクション	1	1	1	2	1	1	1
オペラへの招待	2	2	2	1	2	2	2
計	4	4	4	4	4	4	4

びわ湖ホール声楽アンサンブル卒団者数

(単位:公演)

	2017年度	2018年度	2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
	実績	実績	目標	実績	目標	目標	目標
声楽アンサンブル卒団者数	1	9	5	1	2	3	3
累計	51	60	56	61	63	66	69

オペラ指揮者セミナーの受講生数

(単位:人)

	2017年度	2018年度	2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
	実績	実績	目標	実績	目標	目標	目標
指揮者セミナー受講生数	5	4	5	5	5	5	5

びわ湖ホール声楽アンサンブル依頼公演数

(単位:公演)

	2016年度	2018年度	2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
	実績	実績	目標	実績	目標	目標	目標
声楽アンサンブル依頼公演数	19	36	22	28	23	24	25

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

5か年計画では、びわ湖ホール「三方よし」の実現を目指し、3つの目標を持ち事業に取り組んでいるところで、1つ目が「舞台芸術の創造・発信」であり、最も力を入れているプロデュースオペラ『神々の黄昏』の制作では、楽譜に忠実であることを信念とするミヒヤエル・ハンペの演出は、プロジェクションマッピングなど最新の技術を駆使し、物語の世界を非常に美しく壮大に表現しながらも従来のオペラファンだけでなくビギナーにもわかりやすい、万人に開かれた舞台となりました。このことは無観客公演の無料ライブ配信が延べ41万人を超える視聴者数となり、TwitterなどSNSでも大きな反響を呼んだことから伺えます。また、公演に先立ち作品の背景や歴史などを学べる講座を初心者向け、上級者向けにそれぞれ開催し、より深く音楽を楽しんでいただくための学びの機会を提供しました。さらに「エイフマン・バレエ」や「アリーナコジョカル・ドリームプロジェクト」のような世界最高峰のバレエを招聘し県民はもとより関西圏の皆様一流の舞台芸術に触れる機会を提供しました。また、声楽アンサンブル第69回公演では宮沢賢治作品にまつわる合唱劇を取り上げ、その魅力を発信するとともに、びわ湖ホールと東京文化会館で行うことにより、関西だけではなく東京でも発信しました。

また、2つ目の「舞台芸術を支える人材の育成」として実施した「オペラ指揮者セミナー」は、世界的にも珍しいオペラ指揮者に特化したセミナーであり、国内外からの注目度も高く、受講生、聴講生は海外を含め各地から集まりました。また、イタリア声楽曲研修では世界的なオペラ歌手からびわ湖ホールアンサンブルメンバーが公開指導を受ける形で実施し、一流のノウハウを次代に引き継ぎ、若手実演家の育成を図りました。また、びわ湖ホール舞台技術研修では3月の研修と成果発表は中止となりましたが、国内有数のびわ湖ホールの舞台機構とスタッフを活かし、実際に作品の制作を行う研修を実施することによって、舞台芸術を担う人材の育成を図りました。

3つ目の「舞台芸術に親しむ観客の創造」では子ども向けオペラ「泣いた赤鬼」を県内11か所で上演し、地域ホールと地域住民の「つながり」や市町ホールを中心とした地域の盛り上がりの醸成に寄与しました。また、びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）では、県内の小学校や特別支援学校、日系ブラジル人学校の生徒たちをオーケストラ公演に招待しました。参加者は年々増えており、令和元年度には初めて一万人を超えました。さらにこの事業は多くのメディアに取り上げられるとともに、他府県のホールからの視察も多く受け入れました。また、音楽愛好家を募り公演を実施する「アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～」や「ジルヴェスター・コンサート」の一般合唱やファンファーレ隊への参加を一般公募することにより県民の文化活動への参加を促進しました。

また、事業の核となる「びわ湖ホール声楽アンサンブル」への評価も前述の事業や定期公演、学校巡回公演、ふれあい音楽教室、ロビーコンサートなどの普及事業を通じて地域での評価を高めました。

地域連携公演の公演数

(単位:人)

	2017年度	2018年度	2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
	実績	実績	目標	実績	目標	目標	目標
地域連携公演の公演数	8	4	6	11	6	6	6

小中学生向け事業参加者児童数

(単位:人)

	2017年度	2018年度	2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
	実績	実績	目標	実績	目標	目標	目標
音楽会へ出かけよう!	8,194	8,544	12,500	10,948	14,000	14,000	14,000
学校巡回公演	2,183	3,357	3,000	1,879	3,000	3,000	3,000

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

劇場間のネットワークを活かして、共同で公演の制作を行うことによって、事業費の縮減やノウハウの共有を図りました。平成 30 年度より新国立劇場と公演連携、人材交流・育成を目的に連携協定を締結しオペラ公演や人材交流をおこなっております。また「エイフマン・バレエ」や「アリーナ・コジョカル・ドリーム・プロジェクト」など複数館での海外招聘公演を実施するなど他館と連携した事業を行いました。

また、次代の舞台芸術を担う人材を育成するため、ホール内での技術継承とともに、滋賀や京都の大学も参加する舞台技術研修や、滋賀県公立文化施設協議会におけるスタッフセミナーの実施など、将来ホールの運営を担う人材の育成に力を入れました。

さらに、県南部のびわ湖ホール、北部の文化産業交流会館の 2 つの館の運営を担うびわ湖芸術文化財団では県全域の文化振興を担うため、財団内の人事異動による組織の活性化や新規職員の積極的な採用により、将来に向けて事業継続が可能となる組織体制の強化を行いました。

また、県の指定管理を受け持続的に事業を推進するとともに、国や民間からの助成金の獲得に努めました。また、令和元年度より営業部を新設し、びわ湖ホール友の会やびわ湖ホール舞台芸術基金、オフィシャルスポンサー制度等や、企業協賛など、新たな財源の確保も積極的に行いました。特にびわ湖ホール友の会の一般会員やサポート会会員は平成 30 年度の 3,601 人から平成 31 年度には 3,762 人に増えており、このことはびわ湖ホールのリピーター確保につながることも、多くの方からご支援いただいていることを表しており、これからもゲネプロ見学会や、出演者との交流会などの実施により新たな会員の開拓に努めていきます。

併せて、劇場サポーターとして、びわ湖ホールを応援いただける方を広く募集し、これまで第 1 期から第 24 期までで通算 114 名の方に、講座や公演でのボランティアなどの活動にご参加しました。これらにより、びわ湖ホールの役割を地域の皆様に理解いただき、滋賀県にびわ湖ホールがあって良かったと思っていただけるような土壌を形成していきたいと考えています。

びわ湖ホール友の会会員数

(単位:人)

	2017年度	2018年度	2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
	実績	実績	目標	実績	目標	目標	目標
一般会員	3021	3174	3200	3288	3250	3300	3350
サポート会員	281	308	330	355	350	370	390
特別会員	114	119	125	119	130	135	140